



青梅市立第一中学校

令和8年度 第1回学校運営協議会 議事要旨

【開催日時】：令和8年6月5日（金） 14:30～16:00

【会 場】：第一中学校

【参 加 者】：校長、副校長、スポーツ推進委員、第一支会長、青少年健全育成委員会青梅地区委員長、
地域コーディネーター、主任児童委員、PTA会長
：各分掌主任、学年・学級主任等

第一部：学校運営協議会の組織・運営、学校経営について

○組織について

- ・会長及び副会長を選出。
- ・地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）着任の報告。

※以下校長及び副校長からの説明概要

○目指す学校像と指導指針

基本的な考え方

- 1 生徒が安心して通うことができる学校
- 2 保護者・地域が安心して通わせることができる学校
- 3 教職員が安心して働くことができる学校

を目指している。

そのために、教職員には「凡事徹底（当たり前のことを徹底する）」「率先垂範（模範となる行動をまずは教師が行う）」「師弟同行（教師と生徒が共に考え行動する）」の3点をキーワードとして掲げ、日々の教育活動に励んでいる。

○学力向上

学校の柱として「確かな学力の定着」を掲げ、タブレット端末や電子黒板の活用を進めている。単なる指示待ち状態ではなく、自ら学習方法を考え選択する「主体的な学習」の実現に注力している。今年度は市内研究指定校としてその成果発表（2月予定）に向けて取り組んでいる。

○生徒が安心できる環境

いじめを許さない、しない風土を築くため、自己有用感を高める活動を行っている。例えばボランティア活動等の推進等。

○豊かな心

道徳教育やキャリア教育、地域でのボランティア活動を通じて「豊かな心」を育てている。

○その他 言葉の力を中核とした教育活動

校長による朝礼メモの全生徒提出・コメント返信を通し、聴く力や自分の考えを表現する力の育成に取り組んでいる。

○創立80周年と制服見直し

今年度は創立80周年の節目となる。記念式典や行事は来年度を予定しているが、本年度秋口には周年実行委員会を立ち上げる計画である。

80周年に合わせ、制服の見直しに関する検討も開始している。現在は生徒・保護者へのアンケートを実施し、次年度以降の刷新検討に向けた基盤作りを行っている。

○教職員体制の現状

本校は教職員数が66名と非常に多く、若い教員が中心となって活気ある体制を築いている。特に部活動については、働き方改革が課題となる中、ほとんどの教員が顧問を引き受けてくれ、活動に参画している点は本校の大きな強みであり、地域からも高く評価及び期待されている。

○学校評価シートを基にした、取組の評価

校長の掲げる学校経営計画・方針を数値化し、教職員等もその実現・達成等を意識しながら、取り組んでいくための指標となる。学校運営協議会でも、その評価等について協議をいただくこととなる。本校は教職員数が66名と非常に多く、若い教員が中心となって活気ある体制を築いている。

○学校運営協議会年間計画

今回の協議会のような会でいうと計3回を冊子に載せているが、道徳地区公開講座、12月の会、地域から学ぶ教室等を含めると別紙のとおり計6回を計画している。都度、メール等で委員にも案内をさせていただく。

●質疑・応答・懇談

- ・学校評価シートはどのように生かされているのか。
- ・学校経営方針がどの程度実現できたのかについて、要点を絞り、数値化することで、改善点を見付け、次の取組に生かしていく。

第二部：各分掌主任から

1 教務部

役割：学校全体の教育課程の編成、時間割作成、行事の調整など、学校運営の根幹を支える事務・運営調整。

今年度の取組：

- ・各学年・分掌と連携し、行事の精選と継続をバランスよく進める。
- ・出席簿のデータ管理など、業務のデータ化を積極的に進めている。
- ・体育大会などの主要行事を滞りなく実施し、次年度以降の修学旅行等の日程調整も行っていく。
- ・1年生の校外学習を従来の川越から、地域理解を深める「青梅学」へ刷新する。

2 生徒支援部

役割：令和7年度から生活指導と呼ばれている学校生活全般の指導を行う担当部署と、特別な配慮が必要な生徒を支援する担当部署とを統合し、「生徒支援部」として、生徒が安全に過ごせる環境を整えている。

今年度の取組：

- ・「いじめ撲滅宣言」を掲げ、いじめを許さない環境を整えている。
- ・言葉の暴力（不適切発言）を一切禁止し、互いを尊重する指導を最優先で実施している。
- ・社会に出るための準備として、生徒間・教員間で距離感を保ち、丁寧な言葉（敬語）で接する指導を強化している。

- ・青梅大祭で活躍する生徒を見て、地域もしっかりと子供を育ててくださっていることが分かった。引き続き地域・家庭と連携し、地域社会の中で子供を育てる環境づくりを継続していきたい。
- ・個々の生徒の悩みや課題に対し、家庭と連携しながら組織的なサポート体制を取っていく。

3 進路研修部

役割：進路指導（キャリア教育）、教員の研修企画、総合的な学習の時間・道徳教育の指導計画策定。

今年度の取組：

- ・進路指導はキャリア教育とも呼ばれ、本校では、1年（職業調べ）、2年（職場体験）、3年（進路決定）と、段階的に将来を考える学習を体系化している。
- ・市の研究指定を受け、「主体的に学習に取り組む生徒の育成」をテーマに、効率的な学習法を生徒に習得させる取組を行っている。
- ・「輝く一中生」の実現に向け、地域の声も取り入れながら道徳の授業を深める。
- ・授業力向上のため、年数回の授業研究の実施や2月の市内研究発表会に向けた全校体制での取組を行っている。

●質疑・応答・懇談

- ・説明を聞いて、現在の学校は様々な社会の要請を受けた制約の中で、教員が創意工夫をして教育活動を展開し、生徒が見守られた中で学校生活をしていると感じた。昔は現在のような制約ではなく許容される環境で、教員も生徒も自由度がある中で失敗や成功の経験を積むような学校生活を送っていた記憶がある。教員の皆さんの創意工夫を学びながら、学校運営協議会のメンバーの一人として、学校運営の一助になればと感じた。
- ・地域の中では、ある程度子供・大人共に言葉遣いについては許容されている。TPOが身に付くとよいと感じる。
- ・学校でどのような教育を行い、地域でどのように大人の方が関わってくださっているのかを、互いに知ることができる良い機会であった。

第三部：各学年・学級の現状

3年生

・最高学年の自覚

クラス替え直後から「笑顔でいよう」を合言葉に、前向きな姿勢で最高学年としての生活をスタートさせることができた。

・自主的活動

委員会活動や体育大会の準備において、生徒が主体的に立候補し責任感をもって運営に取り組んでいる。

・進路への意欲

体育大会では、朝早くからの準備や、最後まで残ってくれての片付けをしてきていた。「最後だから一番長く楽しみたい」という思いがあったようであった。献身的な姿や前向きな姿勢を今後の進路開拓へつなげていく。

2年生

・先輩としての自覚

新入生を迎え、部活動や委員会等で、先輩として手本となる意識が芽生えている。体育大会でも昨年度の経験を生かし、実行委員を中心に自分たちで考え、取り組むことができた。

・職場体験

事前訪問を終え、準備を進めている。実際の体験では、地域の大人と接し、普段できない活動を通して学びを得てくれると思う。

・真面目さと課題

真面目、かつ控えめな性格の生徒が多いように見えるが、職場体験等の機会を通して殻を破り、主体性を伸ばせるよう指導をしていく。

1年生

・高いエネルギー

入学時から非常に活発で、クラスの垣根を超えて交流できるパワーをもっている。休み時間にもぎやかに過ごしている。

・生活習慣

小学校からの時間的な習慣が定着しており、予鈴前に着席するなど、行動面でもメリハリのある姿を見せている。

・今後の活動

生徒主体で決めた「明るい心、活かせよ個性、ふるまい笑顔1年生」というスローガンを掲げ、10月の青梅学、1月のスキー教室など、行事に追われながらも成長を促す環境をつくっていききたい。

G組（特別支援学級）

・3年生のリーダーシップ

3年生が手本となって学年縦割りの活動を牽引し、マリーゴールドの花の植え替え等でも大きな成果を上げている。

・主体的挑戦と成果

「人文字作り」を生徒主体でやり遂げた。その後も体育大会の大縄跳びでは、予行で跳べなかった姿もあったが、本番では連続で跳ぶことができた。また、リレーでも満足のいくバトンパスができるなど、生徒たちの自信と成長につながった。

・コミュニケーション育成

学習発表会を通じ、コミュニケーション能力の育成を軸とした活動を進めていく。

やわらぎ（特別支援教室）

・巡回指導体制

本校の教員4名が、一中だけでなく二中、西中、七中の計4校48名の生徒を巡回指導している。

・自立活動

国語・数学等のいわゆる「教科指導」ではなく自立活動という指導において、「聞く・見る・書く」能力や社会性の向上を目指し、個々の得意を伸ばす指導・支援を行っている。

●質疑・応答・懇談

- ・令和8年度の本校部活動の人数等の情報交換
- ・地域の気になる児童・生徒の行動についての情報交換
(上記2点の詳細は紙面では割愛)

※要旨取りまとめの都合により、実際の進行とは順番を入れ替えたり、補足を追記したりしている箇所があります。

第2回は、7月4日(土)午後1時30分～道徳授業地区公開講座に係る研修会・協議会として実施